

大項目	小項目	本校の状況	自己評価	外部評価	
			4適切 3おおむね適切 2一部改善を要する 1改善を要する		
1 教育理念・目標の確立					
1-1	教育の基本理念を確立し、明示している	『産業構造の高度化、多様化、情報化に対応する豊かな感性と創造性を備えた実践技術者を育成確保し、本県の技術力の向上と産業界の振興に貢献するため、「地域産業に密着した人材育成機関とする」、「開かれた短期大学校とする」、「地域産業の技術開発に貢献する」の3つの目標を達成すること』を基本理念に掲げており、学校ホームページやパンフレットに示している。	4	4	○教育の基本理念を明記し、さらに募集要項にも記載することで、アドミッション・ポリシーとの連動も図れると考えられ、高く評価できる。 ○建学の精神を踏まえた基本理念が確立されており、学校案内、学校ホームページ、学生募集要項、学生便覧等発行物の冒頭に同趣旨の文言が明示してある。ただし、媒体で表現が異なるケースがあり整理が必要ではないか。また、教育理念がアドミッション・ポリシーとして紹介されているが、教育理念そのものをアドミッション・ポリシーとして示すのは、概念としては少し混同している印象を受ける。 ○学校ホームページには、必要かつ適切な情報が網羅されており、見せ方も工夫され十分に評価できる。 ○教育理念、三本の柱、求める学生像が学校案内、学生便覧、ホームページに明記されている。 ○適切に定められ、ホームページ、パンフレット等に明示されている。
	教育目標を確立し、明示している	「実践技術者の育成」、「創造的で個性的な技術者の育成」、「地域産業界との緊密な連携に基づく人材育成」、「より高度な実践技術者の育成」の4つを重点目標に掲げている。また、学科ごとに教育目標を定めており、学校ホームページや学校パンフレットに示している。	3	3	○4つの教育目標が明示された上で、学科ごとの教育目標も定められたことは評価できる。 ○ホームページやパンフレットへの記載について、概要がつかめるように改善が進んでいる。 ○適切に定められ、ホームページやパンフレットに明示されている。
	1-3	アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）を定め、明示している	求める学生像として、「ものづくりへの興味・関心(発想が豊かで柔軟性があり、新たな価値・モノを創造しようとする情熱のある人)」、「「探究心」をもって挑戦しようとする積極性と実行力(好奇心、感性にあふれ、積極的、主体的にいろいろなことにチャレンジし、実行できる人)」、「社会に貢献しようとする心(異なる考え方や文化を尊重するとともに、地域を愛し、社会に貢献しようとする意欲のある人)」を掲げており、学校ホームページやパンフレットに示している。	3	3
2 体系的な訓練課程の編成					
2-1	育成する人材像と教育の重点事項を定め、明示している	育成する人材像を「高度な知識と技術を兼ね備え、時代と地域産業の要請に応えた技術開発や計画・設計のできるものづくり産業の担い手」とし具体的に重点事項を定めており、学校ホームページや学校パンフレットに示している。 また、技術的な面のみならず「探究心を持ち、課題発見力・課題解決力やイノベーション力を身に付けた人材」も育成する人材像として明確にしていく。 シラバスの記載内容、カリキュラムチャートを統一した。	4	4	○育成する人材像を明記した上で、そのような人材育成のためのカリキュラムを整理し直してカリキュラムチャートを作成したことは大きな進展である。さらに、それをシラバスにも反映させることは体系的な教育体制の明示として高く評価できる。 ○育成する人材像と教育の重点事項は学生募集要項に項だてて明示されている。加えて、教科計画には教科の細目が示され、学習案内には各科目ごとに掘り下げた育成人材像・教育の重点事項が示されている等、情報量は十分。熱意も感じられ評価できる。昨年度指摘のあった記載内容等についても統一され、着実に改善されている。 ○育成する人材像やシラバスの記載内容について改善が進んでいる。 ○適切に定められ、ホームページやパンフレットに明示されている。
	体系的に訓練課程を編成し、明示している	R7年度のシラバスにおいて各科目ごとに体系的な訓練課程としてカリキュラムチャートを作成し、どのような技術がいつ、どのような科目で身に付けられるかを一覧化した。	4	4	○科目ごとのシラバスの内容とカリキュラムチャートによる位置付けで、体系的な訓練課程が明示されたことは高く評価できる。 ○学科ごとに細やかに整理された訓練課程が学科・実技別に編成されており、いずれも統一されたフォーマットで学修案内（シラバス）に明示されている。 ○カリキュラムチャートによる訓練課程の見せ方の改善が進んでいる。 ○適切に定められ、シラバスに明示されている。科目間のつながりが系統的に理解できる形式とすると学生の理解が深まることが期待されるため、検討されたい。

大項目	小項目	本校の状況	自己評価	外部評価	
			4適切 3おおむね適切 2一部改善を要する 1改善を要する		
2-3	学習成果を定め、明示している	科目ごとの授業概要に教育の目的と到達目標を示している。具体的には、シラバスにおいて、科目の位置付けを学科の教育目標と対応させている。	4	4	○科目の位置付けを、獲得可能な学習成果という観点から教育目標と対応させている点は高く評価できる。 ○シラバスにおいて具体的に授業内容と到達目標が明示されており、具体的な成績評価基準も示すなど十分な配慮がなされている。 ○到達目標と科目の位置づけから身につけるべきスキルが把握できるようになっている。 ○適切に定められ、シラバスに明示されている。
	修了認定方針を定め、明示している	履修規程に授業科目、授業単位、履修の認定、試験、進級条件、修了の認定について示している（学生便覧）。履修規程を見直し、授業単位、成績評価ほか必要な改正を行った。 R7年度入学者までは全授業科目の履修をして、授業科目の全ての156単位を取得で修了。 R8年度入学者以降は全授業科目の履修をして、148単位以上（必須科目については全て）の取得で修了。			○修了認定方針が明示されている点は評価できる。また、認定の方針についても、履修方針を見直し、必要な改正を行ったことは高く評価できる。 ○学生便覧に履修規程が記載され修了認定方針が明示されている。 ○修了認定方針を定め詳細を明示している。 ○適切に定められ、学生便覧に明示されている。
3 授業科目における訓練目標、授業の内容と方法、訓練計画及び成績評価基準					
3-1	履修科目、訓練目標、授業科目の内容と方法を明示している	シラバスにおいて、具体的教育内容の全体像が把握できるように統一様式にして、履修科目における目的・到達目標及び授業計画と授業の方法を詳細に明記している。	3	3	○シラバスの書式が全体できちんと統一された上に、必要事項が網羅された点は評価できる。 ○いずれもシラバスにおいて十分な情報量で記載されている。 ○統一された書式でわかりやすく記載されている。 ○シラバスに指定された項目が記載されている。
	授業計画を明示している	教科計画の年間授業時間算出表で総訓練時間を算出し、教科の細目で教科、教科の細目、訓練時間を明記。また、シラバスにより、授業概要、授業計画等を明記している。			○教科ごとの訓練目標の明示と、それに対応する形での授業概要、授業計画の明記は評価できる。 ○いずれもシラバスにおいて十分な情報量で記載されている。 ○統一された書式でわかりやすく記載されている。 ○シラバス及び教科計画に記載されている。
3-3	成績評価基準を明示している	履修規程（学生便覧に掲載）に成績評価基準を明記するとともに、シラバスに科目ごとの成績評価の基準と方法を明記している。	3	3	○科目ごとに成績評価基準が明示されたことは評価できる。 ○いずれもシラバスにおいて十分な情報量で記載されている。 ○科目ごとの成績評価基準が明記され改善が進んでいる。 ○履修規定及びシラバスに記載されている。

大項目	小項目	本校の状況	自己評価	外部評価	
			4適切　3おおむね適切　2一部改善を要する　1改善を要する		
4　授業科目の適切な設計・実施・評価					
4－1	授業科目は、必要な能力を育成するよう編成・実施している	職業能力開発促進法施行規則に定められた標準的な教科や時間数等を基に、カリキュラムチャート等に履修すべき科目と時期を体系的に位置づけて編成し、シラバスに則り授業を実施している。シラバスにおいて、具体的教育内容の全体像が把握できるように統一様式において詳細に記載している。	3	3	○授業科目の編成に当たっては法に定められた教科、時間数を確保し、それらをカリキュラムチャート上に位置付け、編成した上で授業を実施している点は評価できる。また、シラバスの記述もそれに対応している。 ○実施の部分は確認できないが、コメント通りの運用であれば問題ない。 ○カリキュラムチャートにより履修すべき科目と時期を体系的に把握しやすくなっている。 ○カリキュラムチャート及びシラバスに記載されている。
	授業実施内容を評価する仕組みをもっている	前期・後期ごと期末に電子アンケート方式により学生に授業改善アンケートを実施。各授業の担当教員及び所属する学科内の他の教員、管理職がアンケートの結果を閲覧できるようにすることで教員、学科にフィードバック、共有し、適切な改善につなげている。また、フィードバックの仕組みを検討し、学生にも共有した。			3
5　適正かつ厳正な成績評価及び単位認定					
5－1	成績評価を適正かつ厳格に行っている	履修規程に則り担当教員が成績評価基準により評価し、学科ごと成績評価担当教員がとりまとめ科内でチェック、校長を座長とする科横断の進級判定会議及び卒業判定会議で総合的なチェックを行い評価の客観性と妥当性を保っている。シラバスを見直し、成績評価基準に基づき評価している。	3	3	○これまで科目担当教員ごとに委ねられてきた成績評価の基準について全体で共有した上で、総合的な観点からのチェックを行い、成績評価の客観性を確保している点は評価できる。また、その基準がシラバスに一定程度細かく記載されるようになったことは高く評価できる。 ○各規定に定められた基準に則り、評価運用されているならば問題ない。学科横断の判定会議や卒業判定会議による確認も公正かつ常識的。 ○適切に改善が進んでいる。 ○規定に従って行われた評価を複数回チェックしているとのこと、適切と考える。
	単位認定を適正かつ厳格に行っている	履修規程に則り原則として授業時間の80%以上出席し、期末の定期試験等で成績基準を満たした場合に合格とし単位を認定している。成績の評価方法には試験・レポートの提出等があり、シラバスにそれぞれの点数割合を示した上で、60点以上を合格として認定している。			3
5－3	学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている	GPA制度に基づき測定する仕組みを導入し、GPAに関するデータを学生、家族に期ごとに提供するとともに、教員に提供することで適切な学習指導につなげている。職業能力開発促進法に基づく技能照査を実施し、必要な技能、知識の習得状況を検証し、学科・実技試験の得点それぞれ60%以上の者を合格とし、技能士補と称することを可能としている（2年生を対象に卒業前2か月以内に実施）。履修規程にGPA制度について明示している。	3	3	○GPA制度を導入し、学修到達度を個別の学生ごとに把握した上で、担当の教員、保護者等に情報提供することは、学生の勉学状況の的確な認知においても重要である。他方で、職業能力の開発という訓練目標に基づく学習成果もあわせて把握していることは評価できる。 ○GPA制度とそのデータ活用・フィードバック自体は学習指導上有効と評価できる。また、技能士補認定についても学習の動機付けになりそう。 ○GPA制度の活用について適切に進められている。 ○学習成果のデータを用いた測定の方法が明示されそれに従って行われていること、適切と考える。

大項目	小項目	本校の状況	自己評価	外部評価	
			4適切 3おおむね適切 2一部改善を要する 1改善を要する		
6 教育資源					
6-1	教員は適切に配置され適切に教育・研究を行っている	各科の学生の定員に応じた教員を配置（1学年学生数10人―教員3人、20人―6人、30人―8人）し、教員1人に対し学生6.7人ときめ細かな少人数教育を行っている（R7 教員数33人2名欠員）。退職等で欠員が生じる場合は、計画的に教員募集（県職員）を行い補充（R7 2名採用）学校全体の教員研修計画を立て、外部研修への参加により自己研鑽を行っているほか、県や関係機関の主催する研修への参加も促進している。	3	3	○必要な教員数の配置が行われている。 ○現状の体制はおおむね適正と思われる。 ○ガイドブックに掲載の卒業生インタビューからも、少人数教育を生かした丁寧な指導が行われていることがうかがえる。 ○教員の配置状況について確認した。
6-2	教育に必要な施設・設備が整備されている	校地・校舎の面積は職業能力開発促進法の基準を満たし、適切な面積の運動場、図書館、体育館を有している。 施設・設備は施設整備計画に基づき、優先順位をつけて計画的に更新・整備。 R7 整備事例：冷温水発生機更新工事（～R8）、数値制御旋盤更新 等	3	3	○施設・設備の整備計画は計画的にきちんと整備・更新が望まれる。 ○コメント通りの状況・取組であれば問題ない。 ○教育に必要な施設・設備の更新と整備が進んでいる。 ○施設・設備が適切に設置され整備されている。
7 学生支援					
7-1	学生の生活支援を適切に行っている	自宅が遠隔地にある学生のため食事付きの学寮を男女別に整備（男子35室、女子6室）している。 授業料減免等就学支援制度、奨学金制度を適切に運用している。 配慮を要する学生等に対し、教職員による支援会議を行い組織的に必要な支援を行っている。 学生で組織する学生委員会の運営への指導・協力を行っている。 専門のカウンセラーを配置し、学生相談を月4回実施している（R7実績 延べ72回、延べ72人）。ハラスメント相談員（教職員4名）を配置している。学生には、掲示やメール等にて周知している。 学生の利便性を図り、食堂、図書館、駐車場、駐輪場を設置している。	3	3	○学生寮・学生食堂の運営は、諸経費高騰の現状で経営的にも負担を生じるだろうと考えられるが、継続的にその運営を維持している点は評価できる。学生相談の需要は今後も増加することが見込まれるので、適切な支援を継続されることが望まれる。 ○おおむね十分な配慮を持った取組がなされている。困窮学生に対しては、その声をしっかりと拾いながら適宜、親身で柔軟な支援が求められる。相談窓口の工夫やWeb /SNS（匿名相談）活用など学生の声が届きやすい仕組みも検討してはどうか。 ○専門のカウンセラーやハラスメント相談員の配置等支援体制の改善が進んでいる。 ○学生を経済・生活面からサポートすることは重要であり、適切に制度が設置されている。
7-2	学生の進路支援を適切に行っている	学生に『進路の手引き』を配布、進路説明会を開催している(1年次11月)。あわせて保護者向けの進路説明会を(11月)開催し、家族と就活にあたっての情報を共有している。 学科ごとに授業の中でキャリアカウンセラーを講師にキャリアセミナーを開催している（1年次 12～2月）。 教職員による就職指導委員会を設置し、Microsoft Teamsによる情報共有等就職支援活動を組織的に実施している。 学科ごと2年担任およびゼミ担当教員が学生に個別指導を行い就職活動を支援している。 無料職業紹介機関として、学内に求人票の貼り出し・紹介、図書館での閲覧環境整備を行っている（R7実績 求人数875件） 教育研究振興会と連携し本校学生への企業説明会を開催（3月3・4日（対面）山形ピックウィング、5日（オンライン）、会員企業236社、学生92人参加） 企業実習(11月・5月）による就業体験の機会創出、教員の企業訪問による企業情報収集を行っている。 進学希望者を対象に編入対策講座を開設（10月～6月）（数学・専門科目・TOEIC（英語）、面接対策）し、編入学の支援を行っている。	3	3	○学生への進路指導説明会、キャリアセミナーの継続的な実施は評価できる。現在、企業の求人活動の早期化が進み、学生についても早い時期での意識の醸成が必要となる一方で、個別の相談に対しても丁寧な対応が必要とされる。進学についても実績を上げていることは評価できる。 ○多層的で手厚い取り組みがなされている。とりわけ教育研究振興会との連携による企業説明会や企業実習の実施など地元企業との連携の進展は、本学建学の精神に即して十分に評価できる。 大学編入への取組は、学生の可能性を広げ、学習に対する動機づけになるとともに本学の価値、位置づけを高める有効な取り組み。 ○大学編入の取組には、学生の可能性を広げ、モチベーションを高め、または入学者を増やす等の大きな意義がある。 ○進路指導が適切に行われていることを確認した。

大項目	小項目	本校の状況	自己評価	外部評価	
				4適切 3おおむね適切 2一部改善を要する 1改善を要する	
7-3	学生の技術・技能の向上、資格取得を支援するとともに、褒賞制度を設けている	○技能五輪、若年者ものづくり競技大会、東北ポリテックビジョン等各種技能競技会への出場を促進し、参加している。 【R7実績】 技能五輪全国大会「ITネットワークシステム管理職種」選考会（8月）2名 技能五輪全国大会「配管職種」（10月）2名 若年者ものづくり競技大会ウェブデザイン職種予選「ウェブデザイン技能競技会」（5月）1名 東北ポリテックビジョン（2月）土木エンジニアリング科 1チーム、建築環境システム科 1チーム 電子情報通信学会 総合大会（3月） 知能電子システム科 1テーマ ○技能検定等各種資格の取得促進 【R7実績】 技能検定合格 3級 1名 情報技術者試験合格 基本 11名、ITパスポート 10名 1級施工管理技術者第一次検定合格 土木 12名（合格率 100%） 2級施工管理技術者第一次検定合格 建築 4名、管工事 13名、電気 2名、土木 11名 測量士補試験合格 3名 コンクリート製品検定合格 初級 13名 ○成績優秀者、模範・活躍者への褒賞制度（学内褒賞） 【R7実績】 知事賞 1名・山形市長賞 1名・校長賞 4名・教育研究振興会長賞 6名・清水賞 1チーム（3名）	3	3	○技能五輪をはじめとして、種々の技能競技会への参加を促進、支援していることは評価できる。また、その結果としての実績も優れたものがある。今後とも一層の成果を期待したい。 ○意欲的な取組を大いに評価できる。 ○レベルの高い大会や資格取得において、毎年のように素晴らしい成果をだしていることに敬意を表す。情報技術分野の資格取得者数が多く、教員の情熱によって学生の意欲が引き出されているように感じる。 ○技能五輪出場へ向けた積極的な取組が高く評価できる。 ○大会への参加や資格の取得は学生のモチベーションや意欲を高めるうえで重要である。積極的に推進されたい。
	各種団体等と連携し学生支援を行っている	県内企業による学校の支援組織である教育研究振興会と連携し学生向けの企業説明会を開催（R7実績 3月3～5日 会員企業236社、学生92人参加）、企業実習を振興会会員企業で受入れ（5月、11月）、振興会による学生の全国競技会への参加等を支援 同窓会総会等により現役学生も含め卒業生の交流や学校との連携を図っている（総会11月開催92名参加）。 同窓会事業として、産技短祭、卒業祝賀会、花笠祭参加等への助成、協議会等課題活動への支援、就職活動への支援等を行っている。 大学コンソーシアムやまがたと連携し学生支援事業、単位互換事業の紹介等を行った。 ハローワーク等就職支援機関と連携し学生の就職活動支援を行った。	3	3	○振興会と連携した県内企業による企業説明会など、県内就職の促進のためにも重要な活動として評価できる。産技短祭などもさらに一層の広報を行い、地元メディアなどでも紹介されることが、地元における存在感の向上、ひいては志願者確保につながる。各種団体との連携などもより広くアピールできると良いだろう。 ○各団体との適切な連携で支援が行われている。とりわけ同窓会組織との連携強化は学生の進路選択の大きな助けになるのみならず、卒業生のUターンや転職支援にもつながるのではないかな。さらなる充実を期待したい。 ○教育研究振興会と連携した企業説明会・企業実習に対する継続的・積極的な取組が高く評価できる。

大項目	小項目	本校の状況	自己評価	外部評価	
			4適切 3おおむね適切 2一部改善を要する 1改善を要する		
8 産業界との連携（開かれた学校づくりの推進）					
8-1	企業（団体）との連携を推進している	県内企業による学校の支援組織である教育研究振興会と連携し学生向けの企業説明会を開催(R7実績 3月3～5日 会員企業236社、学生92人参加)、企業実習を振興会会員企業で受入れ（5月、11月）、振興会による学生の全国競技会への参加等の支援、教員の研修・スキルアップへの支援、学生募集PR活動への支援、講師として会員社員を招聘 専攻科を設置し、企業人材を受入れ（R7 4社4名） 公開講座を開催し、企業のリスキリングを支援（R7 延べ61日・16講座、延べ56人受講修了） 寄附等外部資金の受入れ促進（R7 実績7件） 企業説明会参加企業数（R7実績：対面210社、オンライン26社） 卒業研究発表会の企業への案内・助言 （参加企業数：延べ185社、企業からの参加人数：延べ247名、企業からの助言数：延べ44件）	3	3	○企業説明会は継続的に実績をあげている点が評価できる。また、学生と企業との交流なども充実した成果である。さらに企業からの人材の受け入れなども、本校の強みとして大いにアピールできる。 ○企業からの支援が単なる資金援助にとどまらず講師派遣等ソフト面にまで及んでいるのは好ましい。 また、連携という意味では本学からも公開講座や共同研究の実施等（企業・団体からの一方向からの支援ではなく）双方向の取組となっているのは評価できる。本学のプレゼンスの向上にも寄与しているものと思われる。アウトプットの余力の範囲ではあり、年度によって活動内容に濃淡が出ることは不可避。 それでも実情に合わせた継続的な取組を期待したい。 ○資金援助だけでなく、人の流れが双方向性となっていることが開かれた学校づくりの推進には欠かせないポイントだと考える。 ○教育研究振興会と連携した企業説明会・企業実習に対する継続的・積極的な取り組みが高く評価できる。 ○企業との連携は地方創生の観点からも積極的に推進されたい。
	企業との共同研究等を推進している	産業技術専攻科における企業派遣学生の研究指導を実施（4件）、卒業研究およびPBLを企業等と連携し実施（10件）、各企業からの技術相談への対応（2件） 山形大学の（一財）森の学校寄附講座「ソーシャル・イノベーションDX」が推進する「超小型人工衛星（ベニバナ・サット）プロジェクト（BSP）」に知能電子システム科が参画	3	4	○企業派遣の学生の専攻科における研究活動の充実には優れた実績として評価できる。各教員の研究シーズ集なども、優れた試みである。より一層、具体的に産業との結びつきをアピールすることで、今後も、県内の企業との合同での研究シーズの実装化への努力などを重ねられんことを望む。 ○専攻科を介した取組が着実に進展している。本学の実態に合わせた共同研究への取り組みと評価したい。本学のあるべき姿として研究開発機能の強化にどの程度力点を置くのか（学術研究/地域貢献/広報宣伝）を課題と捉えていたが、専攻科による学術研究/地域貢献の寄与は大きいように感じた。 ○従来の取り組みに加え先進的なプロジェクトにも積極的に参入していることは、教員の意欲の表れと捉えることができるし学生への刺激にもなる。 ○ベニバナ・サットプロジェクト参画など、技術的な新規性と話題性に富んだ新たな取組が高く評価できる。 ○企業との連携は地方創生の観点からも積極的に推進されたい。
9 地域連携、地域貢献（開かれた学校づくりの推進）					
9-1	高校との連携を推進している	普通高校として初めて県立南陽高校と連携協定を締結した。 教員による高校への出前授業（4件）、産業教育推進のための高校の協議会等への委員就任・助言・探究活動助言・共同研究（7校）、定期的な高校訪問、高校における学校説明会への参加、学校訪問（見学）の受入れ、卒業研究発表会の高校への案内	3	3	○高校との連携により生徒に早期のモチベーション醸成に働きかけをすることは重要である。本学の魅力を早い時期から高校生に周知することは重要である。 ○本学ならではの取り組みとして評価できる。少子化の進展や若者の県外志向が強まる中で重要度は増している。普通高校との連携もすそ野を広げる有効な手立てと評価できる。 ○適切に取組が進んでいる。高校との共同研究について、今後の参考にしたい研究内容や普段の活動について可能な範囲で教えてほしい。 ○県内外の高校との連携、積極的に推進されたい。
	高等教育機関等との連携を推進している	大学コンソーシアムやまがた、やまがた社会共創プラットフォームに加入し連携事業を実施（合同学校説明会、やまがた進学大交流フェスタ、SD・FD研修等）	3	3	○大学コンソーシアムやまがた、やまがた社会共創プラットフォームを用いての連携は重要である。特に山形大学も今後は地域との連携を重視すると考えられるので、ぜひ積極的な連携を進めていただきたい。 ○各高等教育機関とその活動についての情報がなく確認はできないが、コメントの活動が有効であれば問題ない。 ○適切に取組が進んでいる。 ○県内外の教育機関との連携、積極的に推進されたい。

大項目	小項目	本校の状況	自己評価	外部評価	
			4適切 3おおむね適切 2一部改善を要する 1改善を要する		
9-3	民間団体、行政、地域等と連携している	県や市町村、民間団体等への教員の講師派遣・会場提供、体験教室の開催、やまがたAI部活動等への協力 【実績】 ・県産業科学館、県民会館等への出前イベントの開催・出展（9月参加者延べ96名、11月参加者延べ111名、3月参加者延べ50名） ・地域コミュニティセンターと連携した子供向け講座の開催 地域コミュニティセンター（南沼原）「機械への関心喚起」（8月17名） 地域コミュニティセンター（川西）「情報への関心喚起」（8月15名） 地域コミュニティセンター（南山形）「土木への関心喚起」（8月5名） ・夏休みの中高生向けプログラミング講座の開催（7月29名） ・授業（現代コミュニケーション論）を一般に公開 ・関係業界団体と連携した体験教室等の開催（随時） ・学校施設の開放（体育館の地域の学校への開放、図書館・食堂の外部への開放等）（通年） ・学校における業務実績等に関する評価委員会を開催し、外部意見を運営に反映	3	3	○県内の民間団体、行政、地域との連携については、すでに多くの実績をあげており、評価できる。 ○裾野の広い地域貢献活動を行っており、本学の啓蒙やプレゼンス向上に寄与するものと期待できる。一方でこの活動が、どのくらい地域に認知されているかは常に確認が必要。アンケート等による分析も有用ではないか。 ○積極的に開催されている。 ○県と連携したイベント開催・出展を通して、参加者が昨年度より大幅に増加しており、本学の知名度向上に向けた積極的な取り組みが高く評価できる。 ○市町村・民間団体との連携、積極的に推進されたい。
	10 入学生確保・情報発信				
10-1	志願者確保のための効果的な広報を行っている	学校・各科の特長や特色（少人数教育、最先端の機器・実務経験豊かな教員、就職率100%、低学費、各分野の実践技術者育成 等）を各種の機会をとらえPRしている。学内に委員会を設置し効果的な広報の方法について検討、高校の教員を対象とした学校説明会の開催（5月21校）、県内高校訪問（春・秋）、小・中・高校の学校訪問を随時受入れ(R7実績 延べ11件)、出前授業、出前イベント、オープンキャンパス（夏7月 239名・秋10月 78名参加）、各種進路説明会への参加、ガイドブックの作成・配布、県政広報媒体の活用（県広報誌、県政テレビ・ラジオ、SNS）	3	3	○志願者確保のための広報活動に積極的に取り組んでいる点が評価できる。今後は高校だけでなく、より低年齢の生徒たちにもアピールすることで、将来的な志願者確保に益するものと考えられる。特にインターネット媒体を用いての成果の情報提供などは、今後ますます重要性を増すものと考えられる。 ○活動内容としては十分に充実しており、一定の評価ができる。 ただし、取組の効果の検証と方法の検討については継続的な検討が重要。電子メディア（Web/SNS）の活用強化や若手Uターン志望者のリスクリングの受け皿としての都市部向け広報等もあってよい。（もちろん県内のリスクリングの受け皿としても） ○入学生確保のため積極的な広報活動を展開している。 ○昨年度より参加者が大幅に増加し、メディアの利用も積極的に行われている点を高く評価する。 ○積極的な広報を推進されたい。
	知名度向上のため学校全般の情報発信を強化して行っている	SNS（X、Youtube）による発信強化、ホームページ、県庁プレスリリースによる適時の広報、イベントや共同研究事例等の新聞掲載の働きかけ、県広報媒体の積極利用（県政テレビ番組、広報誌等）、地元新聞社への広告掲載、地域コミュニティセンターとの連携	3	3	○学校全体の知名度向上のための情報発信は極めて重要である。特にインターネット媒体を用いての情報提供は、今後さらに重要性を増すだろう。また、地元メディアなどにもできるだけ頻繁に情報を提供し、新聞紙上やテレビなどへの露出を高めることは今後ますます重要になるだろう。 ○適切に取組が進んでいる。積極的な広報を推進されたい。

《評価指標》

	評価指標	評価指標の観点	R7の目標	R7の実績	外部評価
1	総訓練時間数 ※R7の実績はR7入学生の1年次実績と2年次予定時間の合計	教育訓練が規定に即して行われているか(R7入学生の総訓練時間数(見込み))	2,800時間以上	デ2,970h メ2,985h 知2,976h 情2,916h 建2,832h 土2,893h	規定に則って実施されている。 目的を達していることが確認された。
2	就職希望者に対する就職率 (県職業能力開発計画目標値)	学生の希望に沿った支援ができているか（R8.3月卒業生の就職希望者の就職率）	100%	100%	就職率100%は素晴らしい成果である。 本学が訴求する最大の強みだけに継続的な努力をお願いしたい。 就職率の高さは充実した教育と地域の評価の賜物であり、高く評価される。
3	県内就職率 (県職業能力開発計画目標値)	県内産業界に人材を輩出できているか（R8.3月卒業生の就職者のうち県内就職率）	90%	85%	本学建学の目的でもあり、今後とも高い実績を目指していただきたい。 85%という数字も十分に高いが、さらなる目標の達成が望まれる。